

平成31(2019)年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立雀宮南小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成31(2019)年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

平成31(2019)年4月18日(木)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年(国語、算数、理科、質問紙)

中学校 第2学年(国語、社会、数学、理科、英語、質問紙)

4 本校の実施状況

第4学年	国語	63人	算数	63人	理科	63人
------	----	-----	----	-----	----	-----

第5学年	国語	62人	算数	62人	理科	62人
------	----	-----	----	-----	----	-----

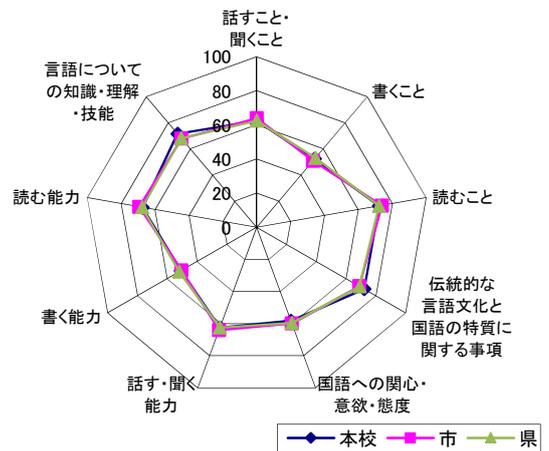
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、
「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立雀宮南小学校 第4学年【国語】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	62.5	64.0	62.5
	書くこと	52.4	50.9	53.1
	読むこと	72.2	73.9	72.2
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	72.2	68.9	69.1
観点	国語への関心・意欲・態度	58.3	59.9	59.7
	話す・聞く能力	62.5	64.0	62.5
	書く能力	50.8	50.4	52.0
	読む能力	67.4	69.3	67.6
	言語についての知識・理解・技能	71.5	67.9	68.2



★指導の工夫と改善

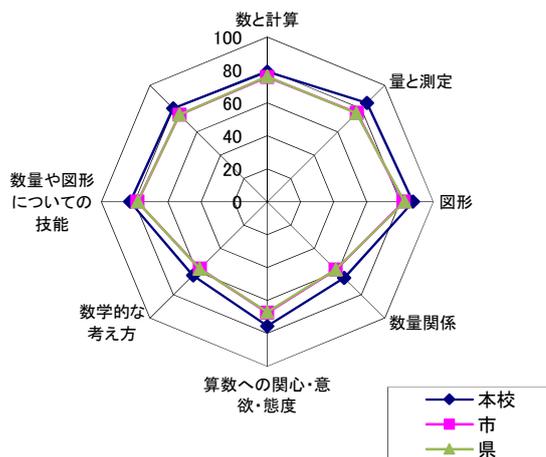
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	<p>平均正答率は、県の平均と同じだが、市の平均を下回っている。</p> <p>○話し合いの内容を、話し方の工夫に注意して聞き取る問題の正答率が高い。</p>	<p>・学習の前にめあてを確認し、話の中心を意識して話をしたり聞いたりできるようにする。</p> <p>・グループ活動での話し合いにおいて、一人一人が司会進行をしたり考えを発表したりする場面を、意図的に多く取り入れるようにする。</p>
書くこと	<p>平均正答率は、市の平均を上回っているが、県の平均を下回っている。</p> <p>○作文を読んで、2段落構成で文章を書く問題の正答率が高い。</p> <p>●作文を読んで、その方法が良いと思う理由や事例を挙げて文章を書く問題の正答率が低い。</p>	<p>・良い文章を視写したり、良い表現を紹介したりして書く内容の充実を図る。</p> <p>・日頃から学校行事等を実施後、その様子や感想を順序に気を付けたり理由付けをしたりしながら、短作文を書く活動を多く取り入れる。</p>
読むこと	<p>平均正答率は、県の平均と同じだが、市の平均を下回っている。</p> <p>○説明文の内容を的確に読み取る問題の正答率が高い。</p> <p>●段落の役割を理解して、文章の内容を的確に読み取る問題の正答率が低い。</p>	<p>・文章の要点を押さえながら、読み解く練習を国語だけでなく、他教科でも丁寧に指導するようにする。</p>
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	<p>平均正答率は、市・県の平均を上回っている。</p> <p>○3学年の漢字の読み・書きの問題の正答率が高い。</p> <p>●文の構成・ローマ字の綴り・国語辞典の使い方の問題の正答率が低い。</p>	<p>・宿題でテーマを決めてローマ字で書かせたり、ローマ字しりとりに取り組みせたりして、ローマ字の習得を図る。</p> <p>・学習活動全般で国語辞典の活用を図り、国語辞典の活用力を上げたり、語彙を増やしたりする。</p>

宇都宮市立雀宮南小学校 第4学年【算数】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	79.0	75.8	76.1
	量と測定	85.0	76.5	76.0
	図形	87.8	82.1	82.7
	数量関係	65.4	58.4	58.2
観点	算数への関心・意欲・態度	75.5	67.4	67.0
	数学的な考え方	63.3	57.5	57.7
	数量や図形についての技能	82.7	78.2	78.1
	数量や図形についての知識・理解	80.3	74.8	74.9



★指導の工夫と改善

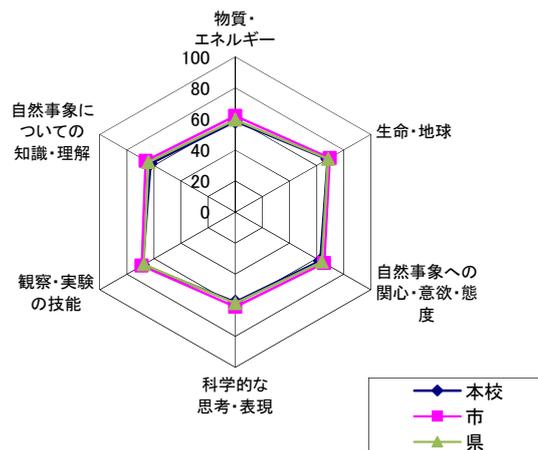
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>平均正答率は、市・県の平均を上回っている。</p> <p>○2けた×1けた、2けた÷1けたの計算の問題や分子が1の分数が何個で1になるかという問題の正答率が高い。繰り返し、練習問題に取り組んできた成果であると考えられる。</p> <p>●3けた÷3けたの計算の問題の正答率が低い。</p>	<p>・3けた÷3けたの計算については、繰り下がりの計算に課題があると思われる。宿題や学びロングなどの時間に、ひき算やわり算の問題で繰り下がりのある問題を多く解かせるようにする。</p>
量と測定	<p>平均正答率は、市・県の平均を上回っている。</p> <p>○ある時刻から一定時間が経過する前の時刻を問題や2つの時刻を比較して、その間の時間を求める問題の正答率が高い。実物を使った操作活動を通して理解させ、練習問題を多く取り組んできた成果であると考えられる。</p>	<p>・実物を使った操作活動を通して理解させ、その活動にあつた問題練習を多く取り組ませるようにする。</p>
図形	<p>平均正答率は、市・県の平均を上回っている。</p> <p>○球の半径から球が2個入った箱の辺の長さを求める問題の正答率が高い。実物を箱に入れた状態を見せたり、作図させたりして、問題のイメージ化を図ってきた成果であると考えられる。</p>	<p>・実物を見せたり、必要に応じて長さを測定させる活動を通して、問題から図をイメージできるようにする。さらに、日常生活と関連した問題を解く時間を確保する。</p>
数量関係	<p>平均正答率は、市・県の平均を上回っている。</p> <p>○□を使って、ひき算の式に表す問題や□を使ったかけ残の式に合った文章問題を選択する問題の正答率が高い。問題の立式の際に、自分の考えを説明したり、少人数で話し合ったりする活動を効果的に取り入れる授業づくりを工夫している成果が表れている。</p>	<p>・算数の時間だけでなく、他教科においても、グラフや表から気付いたことを説明したり、少人数で話し合ったりする活動を多く取り入れることで、基礎・基本の定着を図っていく。</p>

宇都宮市立雀宮南小学校 第4学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	58.4	61.9	59.4
	生命・地球	68.2	69.8	68.5
観点	自然事象への関心・意欲・態度	62.7	65.6	63.9
	科学的な思考・表現	57.9	61.0	58.8
	観察・実験の技能	68.3	69.0	67.4
	自然事象についての知識・理解	62.6	66.1	64.2



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	<p>平均正答率は、市・県の平均を下回っている。</p> <p>○形を変えても重さは変わらないことを理解し、それを説明する問題の正答率が高い。粘土などで実験する際、多様な形を作り重さを確認する活動の充実、さらに自分の言葉で分かったことを発表する活動の設定の成果だと考えられる。</p> <p>●日光を集めた部分の大きさと明るさや温度との関係を問う問題の正答率が低い。</p> <p>●磁石の極の性質を問う問題の正答率が低い。</p> <p>●電気工事をしている人がゴムの手袋や長靴を使用する理由を説明する問題の正答率が低い。</p>	<p>・外遊びの際など、日向と日陰での様子に着目し、明るさや温度についての実感を伴う場を設定し、理解を促すようにする。</p> <p>・磁石に触れる機会が少ないと考えられる。体験活動を行う場を設定し、磁石についての理解を深める場を設定する。</p> <p>・電気を通すものと通さないものの理解に課題があると考えられる。電気製品のコンセントの部分など、日常生活で使う道具に着目する場を設定するなどして、電気を通すものと通さないものの理解の定着を図る。</p>
生命・地球	<p>平均正答率は、市・県の平均を下回っている。</p> <p>○昆虫のからだのつくりを問う問題の正答率が高い。多くの昆虫について観察し、体の仕組みについて記録をとった成果だと考えられる。</p> <p>○日なたと日かげの地面の温度の変わり方をもとに、時刻を推測する問題の正答率が高い。観察記録を取る際に、温度変化と時刻を関連付けてまとめてきた成果だと考えられる。</p> <p>●太陽とかげの動きについての問題の正答率が低い。</p> <p>●植物の育つ順序を問う問題の正答率が低い。</p> <p>●ホウセンカの種を正しくまいて世話をする問題の正答率が低い。</p>	<p>・太陽とかげの動きを関連付けることに課題があると思われる。かげふみゲームなどを通して、かげの動きや動き方、太陽の位置などを確認する場を設定する。</p> <p>・植物を育てる体験が少ないと思われる。いろいろな植物を種から育てる体験を積み重ね、世話の仕方や育つ順序について理解できる場を設定する。また、花が枯れた後の様子にも着目させる。</p>

宇都宮市立雀宮南小学校 第4学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○家庭での学習時間は、普段の日で30分以上1時間以内、土曜日や日曜日などの休日で1時間以内ときちんと確保され、県の平均を上回っている。引き続き継続し内容の充実をしていきたい。

○「授業であつかうノートには、学習の目標とまとめを書いている」は、県の平均を上回っている。ノートコンクールなどを励みにこれからも継続指導しよりよいノート作りを図っていきたい。

○「毎日、朝食を食べている」「毎日、同じくらいの時刻にねている」は、県の平均を上回っている。今後も引き続き、家庭と連携して意識の継続を図っていきたい。

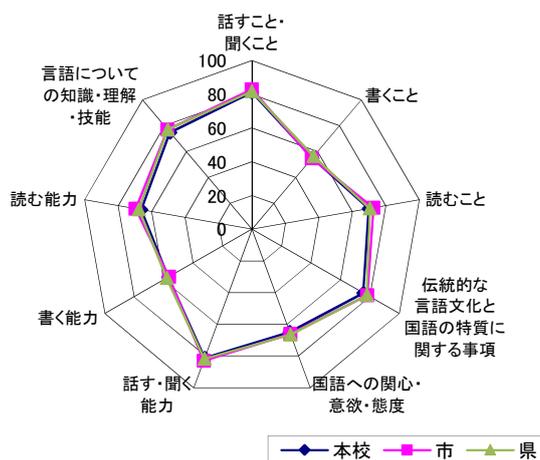
●「家で学校の授業の予習をしている」、「家で学校の授業の復習をしている」は、いずれも県の平均を下回っていて、「家で、テストで間違えた問題について勉強している」も県の平均を下回っている。テストの間違い直しを自主学习として取り入れる等、宿題以外の家庭学習について見直し支援していく必要があると考えられる。

●「1か月に、何冊くらい本をよみますか(教科書や参考書、まんがやざっしはのぞく)」は、県の平均を下回っている。まんがや図鑑等の本は読んでいても、本格的な文章の小説には至っていない現状である。少しずつ長文の読書にも挑戦していけるよう、読書時間の確保や指導の充実を図りたい。

宇都宮市立雀宮南小学校 第5学年【国語】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	81.2	82.9	81.8
	書くこと	55.2	54.8	56.5
	読むこと	69.8	72.6	70.5
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	75.7	78.4	78.1
観点	国語への関心・意欲・態度	64.8	66.0	66.4
	話す・聞く能力	81.2	82.9	81.8
	書く能力	56.8	56.3	57.9
	読む能力	66.2	69.5	67.6
	言語についての知識・理解・技能	75.0	77.2	77.1



★指導の工夫と改善

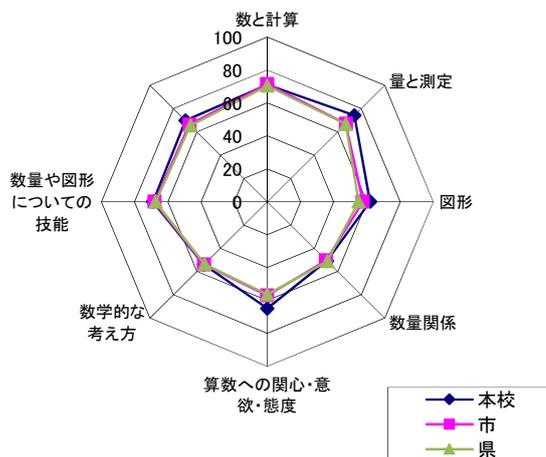
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	平均正答率は、市・県の平均を下回っている。 ●話し方の工夫に注意して聞き取る問題の正答率が低い。	・「何に注意して聞くか」を考えながら聞くことに課題があると考えられる。国語の授業だけでなく、他教科の発表場面やスピーチなどの時間でも、聞くポイントを示したり、聞き終わった後に問い直したりする活動をしていくようにする。
書くこと	平均正答率は、市の平均を上回っているが県の平均を下回っている。 ○自分の考えが明確になるように具体的に文章を書く問題の正答率が高い。短作文を中心とした、「書く活動」を積極的に取り入れた成果であると考えられる。 ●意見をもとに、ポスターに載せる文章を考えて書く問題の正答率が低い。	・相手の意見や考えを受けて、自分の考えを文章にして書くことに課題があると考えられる。自由作文だけでなく、条件に合わせて、文章を考えて書く活動を取り入れていく。
読むこと	平均正答率は、市・県の平均を下回っている。 ○段落のまとまりを理解して文章の内容を読み取る問題の正答率が高い。 ●説明文の内容を読み取る問題の正答率が低い。	・長い文章の内容を、頭の中で整理しながら読み進めることに課題があると考えられる。「はじめ・中・終わり」のに分けて、文章の内容を大まかにとらえていくことや、接続詞の意味に注意して段落相互の関係を考えていくなどの活動を取り入れていく。 ・語彙が乏しくて文章の意味を理解できない児童もいる。意味調べで語彙を増やす活動を取り入れる。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	平均正答率は、市・県の平均を下回っている。 ○修飾語について答える問題の正答率が高い。 ●「唱える」の読みを答える問題の正答率が低い。 ●「きぼう」を漢字で書く問題の正答率が低い。	・ほとんどの設問で県の平均を下回っているため、漢字の読み書きが学年全体の課題と考えられる。ミニテスト等を繰り返し行い、漢字の習得を苦手に行っている児童を中心に定着を図る。

宇都宮市立雀宮南小学校 第5学年【算数】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	71.1	71.5	70.4
	量と測定	74.2	67.0	66.9
	図形	61.9	57.6	55.0
	数量関係	50.8	50.2	51.1
観点	算数への関心・意欲・態度	64.8	57.0	56.3
	数学的な考え方	54.0	53.8	53.6
	数量や図形についての技能	68.9	68.0	67.4
	数量や図形についての知識・理解	69.7	66.3	65.4



★指導の工夫と改善

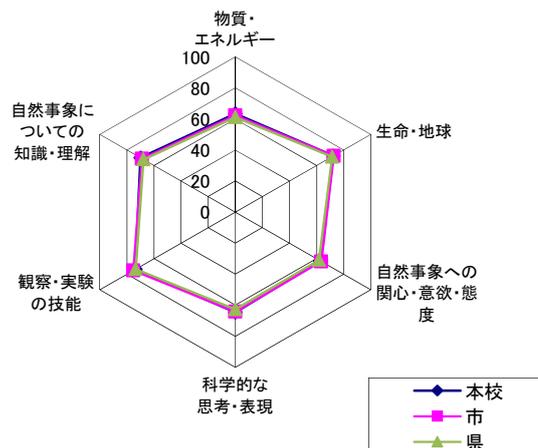
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>平均正答率は、市と県の平均とほぼ同じである。</p> <p>○帯分数一真分数の計算問題や仮分数、帯分数、整数等の大小関係を問う問題の正答率が高い。多くの練習問題に取り組んできた成果であると考えられる。</p> <p>●上からある桁までの概数に表す問題や図を使って、倍とわり算の文章問題にあった式を選択する問題の正答率が低い。</p>	<p>・四捨五入の場所を判断できないということに課題があると思われる。また、文章題を図に表せないことに課題があると思われる。日ごろから、線分図や数直線を使って問題を解く場面を多く設定するようにする。</p>
量と測定	<p>平均正答率は、市・県の平均を上回っている。</p> <p>○身近にあるもののおよその面積(教科書の表面の面積)を聞かれた問題の正答率がとても高い。</p> <p>180°より大きい角の大きさを求める問題の正答率も高い。問題をイメージできるように、実物を使って長さを測り、面積をイメージ化させてきた成果であると考えられる。</p>	<p>・面積の公式をしっかりと理解させたり、実物を使った授業を行い、その後、練習問題に多く取り組ませたりすることで、さらなる基礎・基本の定着を図っていきようとする。</p>
図形	<p>平均正答率は、市・県の平均を上回っている。</p> <p>○四角形の対角線の性質を問う問題、ひし形の作図の問題の正答率が高い。作図の問題を多く解かせたり、四角形の対角線の性質を理解させるために、長さや角度を測定させたりしてきた成果であると考えられる。</p>	<p>・作図の問題を多く解かせ、必要に応じて長さや角度を測定させる。さらに、図形の性質を利用し理由を説明する問題や日常生活と関連した問題を解く時間を確保し、応用力を高めていきたい。</p>
数量関係	<p>平均正答率は、市の平均を上回っているが県の平均を下回っている。</p> <p>○ともなって変わる2つの数量の関係を式に表す問題の正答率が高い。表から気付いたことを説明したり、少人数で話し合ったりする活動を効果的に取り入れる授業づくりをしてきた成果であると考えられる。</p>	<p>・算数の時間だけでなく、他教科においても、グラフや表から気付いたことを説明したり、少人数で話し合ったりする活動を多く取り入れ、基礎・基本の定着を図っていきたい。</p>

宇都宮市立雀宮南小学校 第5学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	63.3	62.4	61.1
	生命・地球	72.4	72.5	71.4
観点	自然事象への関心・意欲・態度	62.6	63.4	61.7
	科学的な思考・表現	64.5	64.1	62.6
	観察・実験の技能	73.7	75.2	73.5
	自然事象についての知識・理解	69.9	68.8	67.8



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	<p>平均正答率は、市・県の平均と同程度である。</p> <p>○水が氷になるときの体積変化について説明する問題の正答率が高い。実験結果から考えられることを、自分の言葉で説明することに取り組んできた成果だと考えられる。</p> <p>○空気でっぽうにおいて、空気を押し縮めたときの手ごたえや、空気のもとにもどろうとする力によって玉が飛ぶことへの理解を確認する問題の正答率が高い。空気でっぽうの性質について、体験活動をたくさん行った成果であると考えられる。</p> <p>●水をあたためると体積が大きくなることを理解する問題の正答率が低い。</p> <p>●電流についての理解を確認する問題の正答率が低い。</p>	<p>・目に見えない現象について実感を伴うことに課題があると思われる。水が水蒸気になると目に見えなくなるが、ビニール袋を使って、その膨らみ方で体積の変化を可視化するなど、実験方法を考える活動の場面を十分に設定する。</p> <p>・電流についての基礎知識の定着に課題があると思われる。電磁石の学習の際には、既習事項についても振り返り、電流についての基礎知識の定着を図るようにする。</p>
生命・地球	<p>平均正答率は、市・県の平均と同程度である。</p> <p>○気温と生物の活動の様子の変化に関する問題の正答率が高い。生物の観察の際に、日付や天気、気温などの情報を関連付けて記録してきた成果だと考えられる。</p> <p>○筋肉がちんんだり、ゆるんだりすることで身体が動くことへの理解を問う問題の正答率が高い。筋肉に仕組みついてモデルを用いて観察を行った成果だと考えられる。</p> <p>●容器にふたがあると、蒸発した水は出ていかず、内側に水滴がつくことを理解しているかを問う問題の正答率が低い。</p>	<p>・蒸発という現象については理解しているものの、ふたがあるという条件では、どのように蒸発が起きるのかの理解が不十分と考えられる。お風呂のふたに水滴がつく現象など、普段の生活の中で見られる蒸発に関する場面を取り上げ、理解を促すようにする。</p>

宇都宮市立雀宮南小学校 第5学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

- 家で、授業の復習やテストの間違え直しをする児童が少ない。また、決められた宿題の他に自分で考えた学習をしている児童も少ない。復習の効果や具体的なやり方を児童に伝え、家で自主学習として取り組めるようにしていく。
- 本やインターネットを活用して学習に関する情報を得ている児童が少ない。学校司書と連携し、単元の学習内容に合った図書資料を紹介したり、子供たち自身でそれらを探せるような声掛けをしたりしていく。パソコンの活用については、操作に慣れていない児童も多くいるため、検索の仕方から段階を踏んで指導をしていく。
- 「発表をすることが苦手」や、「友達の話最後まで聞くことができない」と感じている児童が多い。その結果として、クラスが発言しやすい雰囲気ではないと感じている児童が多い。ペアや少人数での話し合い活動を積極的に取り入れ、話すことに自信をもたせるとともに、聞く態度を養っていききたい。
- 朝食や睡眠など基本的な生活習慣に問題はない。保護者と連携し、今後も続けられるようにしていく。
- 「自分にはよさがある」や「自分はクラスの役に立っている」などの質問に対する肯定割合が低い。お互いの良さを認め合ったり、教師が意図的に褒めたりする時間を設け、児童が自己肯定感や自己有用感を高められるようにしていく。
- 家庭内で学校のことを話す児童が少なく、結果として、保護者に褒められる経験が少ない児童が多い。家庭訪問や個人懇談だけでなく、機を捉えて児童の良さを保護者に伝えていく。
- 自然や宇宙など、科学の内容に興味をもっている児童が多い。

宇都宮市立雀宮南小学校（第4・5学年共通） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
授業におけるまとめ・振り返りの充実	毎時間の授業でめあて・まとめ・ふりかえりをしっかり行うようにしている。	4・5年生ともに、「授業であつかうノートには学習の目標とまとめを書いている」の質問では正答率が、県・市よりも上回っている。
少人数指導・習熟度別学習の充実	3学年以上の算数の学習において、毎時間少人数指導または習熟度学習を行い、きめ細やかな指導を行っている。	4・5年生ともに、算数の全領域で、県の正答率を上回っている。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
4・5年生ともに家で授業の復習やテスト直しをする児童が少ないとの結果が出ている。	家庭学習の充実	自主学習としてテスト直しができるように具体的なやり方を学年だよりの「学びのまど」の中に具体的に記載する。
自己肯定感が低いとみられる回答が多く見られた。	自己肯定感を感じられる環境づくり	「ほめほめカード」を使ったり、「いいところさがし」などを教室に掲示したりして、自分に自信がもてるようにしていきたい。
読書に関する関心があまり高くない結果が出ている。	図書館利用の充実	図書室を利用できる時間を拡大し、図書室に足が向くようにしていきたい。学校司書と連携を取り、いろいろな分野の本を読んだり、単元の学習内容に合った本を紹介してもらったりするなど本に親しむ機会を増やしていきたい。